

研究協議会 講演・シンポジウム記録

名古屋大学教育学部附属中高校 講演

〈梶田教授挨拶〉

総合的学習 人間について学習する。教科に偏ることなく、教科を超えて学習する。

総合人間科の成果があがっているか？

生徒が人間について調べ、考えている。

目標：知識を覚えるとか、抽象的な概念を覚えるとかであれば簡単なこと。しかし、本当に生きた知識になっているかどうかを問うと、難しい。生きた知識＝知性というかどうか。

トイレが汚れている、廊下が汚い、いじめがある。これは、高い知識があっても高い知性があるとは言えない。

「中高の新教育過程づくりのために」

名古屋大学教育学部教授 安彦忠彦氏

はじめに 5日制と学力問題について

大事なことは総合だけで子どもが育つわけではない。教育課程をどう創るかの全体的視野を持って、どういうカリキュラムを創るかを考えてほしい。

小学校は方肩の力を抜いて。

高校は、3から6時間総合の時間がある。先生はあまりいい加減に考えてもらったら困る。

カリキュラムの上できちんと検討してほしい。

学力低下の問題について

5日制下では、小学校は国語算数、中学は英語において宿題が必要だと思う。この2日間で技能が落ちる。反復繰り返しが必要。金曜日までの水準が月曜日には落ちている。親が手当をするかどうかで今以上の学力差が生じる。特に、この3教科について意識してほしい。1教科15分でよい。

学力低下の問題と関連させて言うと規制緩和が進んでいる。間違いなく、後戻りしない。学校の裁量、個々の教師の修正、補正が許される。子供の様子を見ながら補正する自由がある。

そういう部分の責任が強く求められるようになる。

1 日本の中等教育の一と基本構造：生涯学習時代の青年期教育の支店から学校で身につける知識のあり方を問うことになる

①生涯学び続けることのできる力の強調

②学び方の方法の重視

①、②は小から高まで共通

③個性の出現（中高）個性が自分の責任で作りがえられる。

(1)前期と後期があること：「選択履修」の原理の相違
大事なこと 選択の問題

選択履修は中学高校ではいる。選択のあり方については様々な見方がある。中学の選択方法と高校の選択は違うべき。

中学で選択を履修する原理：広く、浅く、多く、短く、軽く

高校で選択を履修する原理：狭く、深く、少なく、長く、重く

高校 個性を伸ばす、深めるのが役目 うまく機能しないのは、中学で選択的な経験が乏しいこと。子供自身が持っている課題に直接にできていない。あてがいぶちの教育で子供は満足しているか？していない。大学の学生も苦痛であったと訴える。中学では相変わらず、選択が機能していない。子供に対して不親切な態度である。主旨がよいのであれば、保護者・地域の協力を得てでも選択科目を設置すべき。

1学期ごとに選択がかえられる履修がよいと思う。半期が現実的とおもう。中1から選択できるのが望ましい。中学で6回違う科目ができる。

部活とどう違うのか、総合とどう違うのか。

違いははっきりしてくる。今の選択は通年。自分の興味関心の特定の科目に取り組む総合は、複数の枠を越えて学習を展開する。選択は特定の科目に取り組む。部活と逆の方向。方向の違ういろいろを経験することはいいことである。

(2)義務教育と非義務教育を含むこと：「基礎・基本」のとらえかた

どういうときにも不用意にこの言葉が使われている。大切なもの、書かせないものをきそ・基本とい

わなければいけないのか？

行政用語としてみるのか、教師の基礎基本と見るのかははっきりしてほしい。

文部省でも教科調査官により、基礎基本は違うことがある。

自分たちの定義実践の上で守らなくてはならない

*基礎基本は山の裾野という考えがあるが、反対にする。全体が個性の展開を妨げないものを絞り込むべき。基礎基本は逆算角形

基礎は基本の下にくる。

時実利彦の本「人間であること」からのグラフ紹介
20歳までの新皮質の発達。

神経細胞3歳くらいまでに急激に発達。高原状態一

子供たちの成長プロセスをマクロに見た場合

1動物として生き残るためのく運動、見る力、聴力）
など動物的な能の発達頭頂葉・後頭葉

2知覚理解認識 側頭葉

3最後9歳前後～11歳 前頭連合野が発達するのではないか思考・創造・意思・情操9歳くらいが人間らしさの基礎 言語まで入ってこないといけない
その後基本に入ってくる

基礎と基本の対比

内容	目標	方法	課題？
基礎 技能と感覚	徹底的な習熟と定着	反復練習	積み上げ型
基本 概念と方法	徹底的な理解と適用	討論	らせん型
基礎を使って基本を身につける			

(3)普通教育と専門教育を含むこと：「総合」の位置づけ

総合的な勉強と一般的な学習を両方学ぶのが望ましい。？

普通科の中だけの総合と考えないでほしい。

総合は簡単なことではない。

総合科の中身は子供に任せたらよい。ただし、目標とかかわるものである。

2 中高の教育課程構成の基本的視点

(1)初等教育と高等教育・中等教育（ポストセカンダリー）との橋渡し

個性と自立の部分で橋渡しをする。

(2)青年期の発達心理的諸課題への対応：性差や心の問題をどう扱うか

性差がはっきりする。心の問題、心理的な複雑な問題が起きてくるがきちんとした指導が必要。キャリアガイダンスカウンセラーが必要。性差については、はっきりと意識して。

(3)中高の「総合的な学習の時間」の作り方：小学校との異同

教材として小学校同じ物を使ってもいいが、同じことをやるのはナンセンス

体験オンリーが強調されるが、体験は総合だけに重要ではない。

大事なことは、各教科や道徳などどうつなげるかが大切（強調）

教科の学習の往復運動がないと困る。理論と体験の往復、そのために教師がいる。理論と体験をつなぐことは親や地域にはできない。

(4)各教科・科目と「総合的な学習の時間」との相互作用敵・往復運動的關係づくり

年間指導計画に位置づけることが大切。メモしておく。

中高は、クロスカリキュラムでもいいと思っている。（個人的には）

トピックを中心にやるという考え方もあり、これはこれで重要。サブトピックで子供の選択をやらせる。

3 今後の教育課程構成の在り方

(1)教育課程構成の「ハイブリッド・モデル」の提案
アメリカブラッドホン？

重要度の高さ・構造ははっきりしているマスタリーカリキュラム

オーガニックカリキュラム

重要度・構造のどっちも低い子供の自由課題とする
4つの枠を組み合わせる

それぞれのねらいに応じてカリキュラムを編成

(2)教科の再編は「教科内容の改造」を優先する。
教科の中身を改造する

(3)6年間を見通した長期的展望に龍教育過程づくり
6年間を見通したカリキュラムづくりを考えてほしい
おもしろい物：韓国の例の紹介リーズナブル
全体を大きく子供を育てる見方を持って、カリキュラムづくりをしてほしい。

おわりに

各学校での教育過程づくりの経験と力量の向上を！